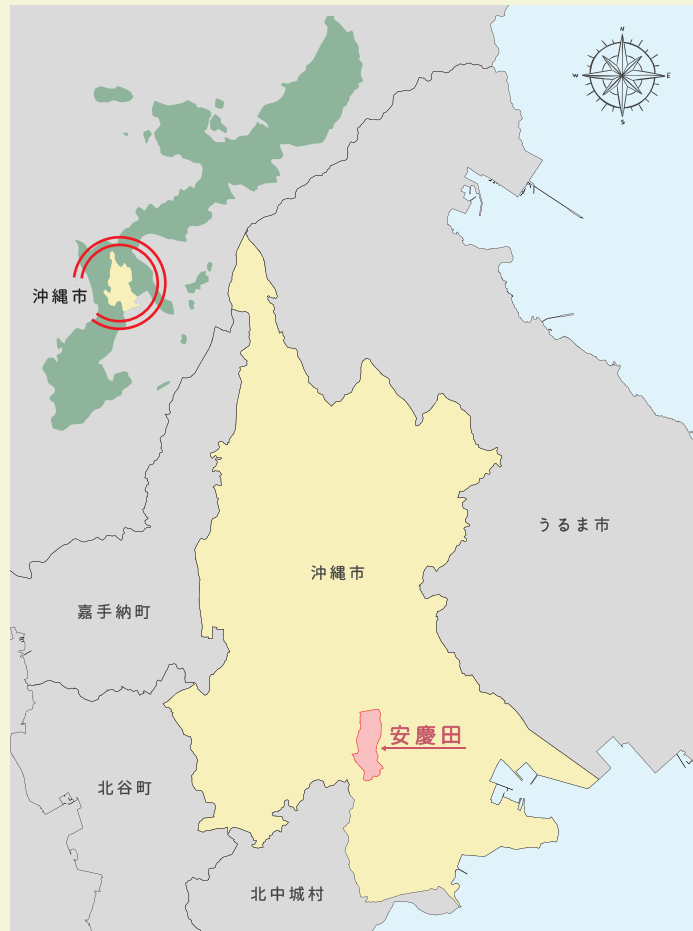


安慶田の位置



2010年の安慶田集落の様子



出典：国土地理院ウェブサイト



沖縄市文化財マップ 安慶田地区

平成29年度発行
発行：沖縄市教育委員会 沖縄市立郷土博物館
〒904-0031
沖縄県沖縄市上地2-19-6 沖縄市文化センター3階
TEL：098-932-6882
FAX：098-933-6218

安慶田地区



沖縄市文化財マップ



安慶田集落について

安慶田は方言でアギダといいます。1721年の歴史資料『中山伝信録』に集落名が記載されています。1763年の『球陽』の記録には、旧集落地は嵐の被害が多く、水の確保も難しいので、居住地も狭かったそうです。そのため、土地が広く、水も豊富で、嵐の心配も少ない現在の場所への集落移動を願い出を許可したとあります。

沖縄戦以前の集落は、畑と水田が広がり稲作が盛んでした。また放牧地としても利用されており、王府時代にはここで育てられた駿馬「クイト」は有名で、王様に献上されたといわれています。

沖縄戦後、嘉間良を中心に室川・越來・安慶田地区は避難民収容所(キャンプ・コザ)となり、二万人の避難民であふれていました。その後、かつての田園地帯も移住者が増え、住宅地となりました。沖縄復帰前後まで、安慶田大通り(国道330号)は、家具店や車の修理工場、鉄工所、材木店などが立ち並ぶ生産業地域でした。

1945年の安慶田集落の様子



出典：沖縄県公文書館所蔵『米軍撮影空中写真 ON24146 019-2』より

ウビナディ

ウビナディ.....それは、沖縄諸島で行われているおまじない。集落で大切にされている井戸などからくんだ水を器に入れ中指を浸し、額を3回撫でます。厄除けや健康祈願の効果があるといえます。

あなたもお正月におばあちゃんなどから額に水をつけられた経験はありませんか？そう、それがウビナディ。お正月以外でもウビナディが行われることがありました。

【ケース1】赤ちゃんが生まれたとき！

赤ちゃんが生まれると、集落で大切にされている井戸などからくんだ水で、年長者の女性が赤ちゃんにウビナディを行いました。赤ちゃんの生命力を上げるためや、産後の清めを意味すると言われています。

【ケース2】結婚式！

現代と違いつては、自宅で結婚式を行っていました。式の最初に夫婦固めの儀礼として、付き添いの女性が花婿と花嫁の額にウビナディを行いました。

上記の2つのケースはチャンスがあれば見ることができるかもしれませんよ。また、普段でも怖い場所などを通ったりしたときなどに、厄除けとしてウビナディをする事があります。水がない時は、ツバでも代用できますのでぜひお試しを！

4 ナカヌカー（中ヌカー）

名嘉山や乗り上の方たちが利用していたと言われています。



5 イリヌカー（西ヌカー）

この一帯はジャーガル（泥灰岩）土壌で溜まり水のため、水質も良くなかったそうです。しかし、サーター窯の隣にあったため、サーターシー（製糖時）には欠かせない井戸でした。



6 ウマヌク（ムラーヤ・カミヤー）

建物1階の神屋に入って左側にカマド（竈）と火之神があります。その右隣の棚には香炉が2つあります。



7 ヤマヤージの井戸

屋号ヤマヤージが掘った井戸で、1800年代後半に掘られたものではないかと言われています。



1 クシバルカー（後原カー）

安慶田の集落が現在地に移動する前に利用していたカー（井戸）と言われてます。安慶田の井戸としては最も古く、元の集落を意味する元島＝古島にあったといわれることから、別名フルジマカーとも呼ばれています。旧暦の9月吉日にカー御願みが行われてたそうです。



2 安慶田御嶽

この御嶽には3つの神が祀られており、拝所に向かって左側に火之神、中央に御嶽神、右側に天地神が祀られています。この御嶽では、旧暦3月、5月、6月のウマチー行事（農作の祈願）の時に稲穂や神酒を供え、豊稔を祈り、豊作を感謝したそうです。現在でも、郷友会の方によって祭祀がとり行われています。



3 アガリカー（東リカー）

子どもが生まれた時に用いる水をくんで名付けをする井戸でした。戦後しばらくは利用していたそうです。集落の人達は旧暦1月1日の旧正月に朝早く、若水（元旦に初めてくむ水）をくみに行きました。このカーは、他集落の人たちにも拝まれています。



越来ダム

沖縄こどもの国にあるダムは、こどもの国開園前は越来ダムといい、1953年に完成しました。沖縄市安慶田の水田に水を送るためにつくられたダムで、安慶田集落の人たちによって越来ダムから簡易水道がひかれています。

しかし、1960年代に入ると安慶田の水田は住宅地になり、越来ダムの役割はなくなりました。現在、安慶田では住宅の片隅に、水路の跡がわずかに見られるだけとなっています。



1957年の越来ダム（「胡屋の今昔写真誌」より）

民家の庭に見られる用水路跡 幅約50cmでコンクリート造り

『土と生きる～沖縄の稲作～』より転載